

# 平成元年度 和歌山県文化奨励賞

## くまのびじゅつきょうかい 熊野美術協会

創 立：昭和8年10月

会 長：田本 実

所 在 地：和歌山県新宮市

会 員 数：会員 31名、会友 4名

意欲的な活動により、本県の美術文化の振興に大きな功績を残した。

### ◎業績及び経歴

昭和初期、浜地清松を中心とした「碧濤社」洋画グループ、中野博明を中心とした写真や杉本義夫、新田譲等の版画グループを中心として、総合展への発展の気運が高まる。

昭和8年に全熊野美術協会(後、熊野美術協会と改称)を結成。紀南地方の美術家のほとんどが参加して、大阪毎日新聞新宮支局の後援のもと、第1回展を開催した。当初は、光画部、版画部、洋画部の3部で開催、昭和10年には、彫刻部が設置され、昭和18年戦争のため中止に至るまで、県下で類をみない総合展として活動。紀南地方の美術文化の振興に大いに寄与した。

戦後、昭和22年に復活し、公民館を中心に展覧会を開催、また、子供たちの絵を募集して、児童画展を開催し、戦後の荒廃のなか、希望の灯を灯した。昭和25年には、阪急電鉄の協力を得て、大阪阪急百貨店で熊野美術協会展を開催するなど大いに、興隆を極めた。

昭和27年に新宮市展が誕生したことにより、熊野美術協会も市に全面協力、発展的に解散し、市展の審査に当たる。

しかし、創立当時の会員からも、復活を待望する声が増え、昭和43年、熊野全域の公募美術展として、16年ぶりに復活、審査員には、モダンアート協会創立会員の村井正誠氏を迎えた。

途中、2度の中断という苦難を乗り越え、平成元年には、40回を迎えた美術展のほか、助け合い小品展の開催、県展、県美術協会展への出品等、